

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

あくあくの滝

安房小 六年 赤松 千聖

二週間以上雨に降られていないので、  
きり大川の滝の水も枯れているものだと思っ  
て来訪した。予想を裏切り、水量は少ないも  
のの、水は落差八メートルを流れ続けて  
いた。そもそも、屋久島の水が枯れるという  
ことは、水力発電の動源を失うことにも発展  
する案件であり、日本百名山の宮え浦岳を含  
む屋久島の千九百メートル級の山々が、雨を

もたらし、森を常に潤しているのだと、安心  
した。  
ぼくは家族と訪れる。ふとしたタイミン  
グで、マイナスイオンを浴びに来るかのよう  
に、ふらりと寄る。遊歩道を進み、いつも滝の前  
まで進んで、ぼくとする。持参したお茶を  
飲んだりして、小休けいをする。だいたい  
つもこのパターンだ。観光客がいない時  
たまにある。日本の滝百選にも選ば  
れる滝を貸し切り状態で過ごす、せい  
たくな一時だ。

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

かといっ、て、写真を撮るわけでもなく、ただ  
 ぼーっと過ぎして、滝を背にして移動する。  
 次は、滝の下流だ。駐車場の下の坂道を少し  
 進んで、ゴツゴツした石に腰を下ろして、小  
 川のせせらぎを聞きながらまたぼーっとする。  
 雄々しい滝の豪音とは違い、こちらは小鳥の  
 さえずりも聞こえる。耳にやさしい空間だ。  
 持参した弁当を食べる。弁当の味はどうだ、  
 たか覚えてないが、川のせせらぎを聞きなが  
 ら食べる、なんでも美味し記憶に残る。  
 せせらぎマジックにかかるとしまった。  
 次に、荷物を車に入れて、手ぶらで海岸方  
 面へ歩く。大川の滝の水が海へと返る。海面  
 から水蒸気を含んだ空気が上昇気流で運ばれ、  
 上空で冷やされて水滴になる。この水滴の集  
 まりが雲の正体で、水滴や氷の粒がどんどん  
 増えて分厚い雲になると、下から雲を押し上  
 げていた上昇気流が支えきれなくなり、落ち  
 るしかなくなって、雨や雪として降ってくる。  
 そしてまた、山に降った雨は海へ返る。とい

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

No. 3

うあけた。体の中を巡る血液のように、水も循環している。海岸に出ると、いつもお気に入り流木を集める。そのため、手ぶらで来る。さかし、集めると、様々な形をした流木があり、唯一無二だと思えて、ついつい両手いっぱい、収集してしまふ。大雨のあとが、水量を増し、流木も選び放題となる。持って返りすぎて、しばしば怒られるが。

ぼくの大川の滝での過ごし方三段階は、年に四回程度、涼を得るために来る夏とは限らず、極寒の冬にも訪れ、過ぎやすい春と秋にも訪れる。毎回、違った姿をしている滝、新しい流木にも出会える、せせらぎマジックのおかげか、いつでも美味しい弁当を食べることができる、夜は決まって、汲んで持ち返った名水を使って直火炊きしたご飯をいたたまなく、ぼくにとって大川の滝は、あくあくのつまった滝である。

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

